

# 回復の兆しはあるものの、見通しは依然として厳しい

## 中小企業景況調査

調査対象期間：2024年7月～9月

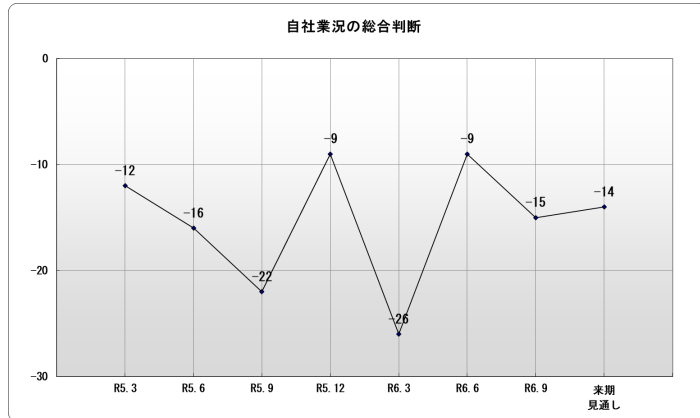
中小企業景況調査は、市内4業種100社の中小企業を対象に4半期ごとにDI（ディフィジョン・インデックス）値を算出する景気動向調査です。項目別に、良いと答えた企業の割合から、悪いと答えた企業の割合を引いた数です。

今期のDI値は、前期と比べ悪化に転じました。生産・売上高の落ち込みと材料仕入単価の高止まりにより採算が悪化しています。この状況は、特に「卸・小売業」に顕著に表れており厳しい状況が続いています。一方で、「製造業」には回復の兆しが見られます。特に来期は、生産・売上高が回復する見込みです。また仕入単価も改善する見通しであり期待がもてます。

なお、今回の調査では特別調査として経営における「円安」の影響について、調査を行いました。どちらともいえないが64%、マイナス要因が37%であり、全業種においてプラス要因となる企業は1社もありませんでした。現状では、夏場の円安局面から一服はしているものの依然円安の状況が続いているため予断を許しません。また、10月1日以降の大幅な最低賃金の引き上げも今後利益の圧迫要因となっていくと見られます。2020年代後半にかけて賃金の上昇ペースは更に上がる見通しであり、今後の影響が懸念されます。このように経営上の課題は山積しており、厳しい経営環境が続くと予想されます。

### 【経営上の問題点】

1. 原材料高
2. 受注・売上の不振
3. 人件費負担増大
4. 技能労働者不足
5. 求人難



### — 綾部の景況天気予報（前年同期間と比較しての景況感） —

	全業種		
	前期	今期	来期
自社業況の総合判断	▲9	▲15	▲14
（生産・売上高）	▲3	▲14	▲2
（材料仕入単価）	▲74	▲68	▲46
（採算（経常利益））	▲8	▲18	3
（従業員数（含パート））	▲32	▲28	▲33
（資金繰り）	▲12	▲21	▲13

	前期	今期	来期
建設業	雲(11)	小雨(▲13)	雨(▲31)
製造業	小雨(▲17)	小雨(▲5)	曇(6)
卸・小売業	小雨(▲21)	雨(▲48)	小雨(▲28)
サービス業	小雨(▲4)	曇(8)	小雨(▲4)

### ■ 【自由記載】

- ・材料費、仕入値は上昇しているが、商品の値上げは難しい。
- ・物価高騰による売上不振。
- ・賃金上昇による経営の負担。
- ・猛暑による売上不振。

### 凡例

快晴	晴	曇	小雨	雨
特に好調	好調	まあまあ	やや不振	不振
DI	50	25	0	▲25
				▲50

### ■ 【特別調査】経営における円安の影響

大幅なマイナス要因	マイナス要因	どちらともいえない	プラス要因	大幅なプラス要因
9%	28%	64%	0%	0%

### 令和6年8月の雇用情報

厚生労働省発表の有効求人倍率 資料：「職業安定業務統計」

- 全国が1.23倍（季節調整値）
- 京都府が1.21倍（季節調整値）
- ハローワーク綾部管内が1.32倍

総務省発表の完全失業率 資料：「労働力調査」

- 全国が2.5%（季節調整値）
- 近畿が2.7%（原数値）
- 近畿の完全失業者数は30万人